

令和元年度 事務事業総点検シート(1)
[平成30年度事務事業]

一般会計		事務事業分類			詳細点検
事務事業名	公害保健福祉事業			シート番号	A 一般事務事業
担当部署名	健康福祉	局	健康	部	保健所 保健医療 課
				評価責任者(課長名)	藤川

Ⅰ. 基本情報

基本情報	1	堺市マスタープランの政策体系に基づく事業の位置付け	政策	1	暮らしの確かな安全・安心を確保します	後期実施計画の位置付け
			施策	1	市民の命を守る健康・医療体制の強化	無
	2	事業開始年度	昭和 49 年度		終了(予定)年度	— 年度
	3	根拠法令等(法令、条例、規則、要綱等)	公害健康被害の補償等に関する法律			
	4	関連計画				
5	事業実施の経緯	昭和49年9月に施行された「公害健康被害補償法」に基づき、指定疾病により損なわれた公害認定患者の健康の回復、保持、増進させることを目的に行われてきた。インフルエンザ予防接種費用助成については平成18年度から、吹き矢教室については平成20年度から、ヨガ教室は平成26年度から、太極拳教室は27年度から実施。				

Ⅱ. 事業概要

事業概要	6	事業の実施主体(誰が実施しているのか。)	<input checked="" type="checkbox"/> 本庁 <input type="checkbox"/> 各区 <input type="checkbox"/> 出先機関 () <input type="checkbox"/> 市外郭団体 <input type="checkbox"/> 地域団体・市民 <input type="checkbox"/> 民間企業・NPO <input type="checkbox"/> その他 ()				
	7	事業の対象(誰を、何を対象としているのか)	堺市内で在宅療養している公害認定患者。インフルエンザ予防接種費用助成については、公害認定を受けている全ての患者。ただし、接種日時点において、生活保護世帯及び市民税非課税世帯に属する者を除く。				
	8	事業の目的(どのような状況にしたいのか)	ぜん息に関する予防薬、吸入薬、吸入器などについての保健師による指導や、公害認定患者自身の基礎体力の向上を図るための教室の開催等により、公害認定患者の健康を回復、保持、増進させることを目的とする。				
	9	事業内容(スケジュール、実施方法・手段、事業ボリュームなど)	・家庭療養指導: 公害認定患者の家庭を訪問し、日常生活の指導、保健療養指導等を行う。 ・いきいきセミナー 呼吸器教室: 医師による講話、理学療法士による指導、運動療法の実践等を行う。 吹き矢教室: リハビリテーションの一環として、スポーツ吹き矢を行う。 ヨガ教室: リハビリテーションの一環として、ヨガを行う。 太極拳教室: リハビリテーションの一環として、太極拳を行う。 ・インフルエンザ予防接種費用助成: 予防接種を受けた認定患者の予防接種負担金額を助成する。				
10	直接実施以外の主な支出先	<input checked="" type="checkbox"/> 直接実施 <input type="checkbox"/> 指定管理 <input type="checkbox"/> 委託 <input type="checkbox"/> 補助金 <input type="checkbox"/> 負担金 <input type="checkbox"/> その他 ()					

Ⅲ. 投入量

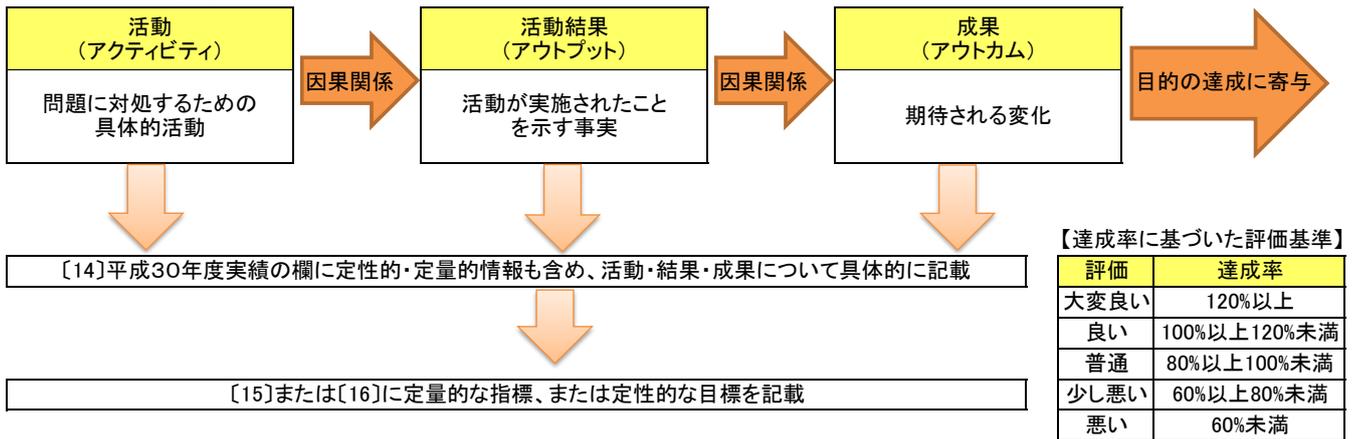
項目	単位	H28年度決算	H29年度決算	H30年度決算	R1年度予算	
11 事業費 (a)	千円	8,470	10,117	10,060	10,215	
主な事業費内訳	保健師報酬	千円	6,616	8,145	8,147	8,102
	医師及び薬剤師報酬	千円	40	40	31	31
	予防接種費用助成金	千円	1,196	1,210	1,154	1,287
	国・府支出金	千円				
	財源内訳	千円				
受益者負担金(使用料、手数料等)	千円					
市債	千円					
その他(負担金)	千円	5,299	5,611	5,766	7,661	
一般財源	千円	3,171	4,506	4,294	2,554	
12 人件費 (b)	千円	7,440	7,590	7,590	7,570	
13 総コスト(c)=(a)+(b)	千円	15,910	17,707	17,650	17,785	

令和元年度 事務事業総点検シート(2)

事務事業名	公害保健福祉事業	シート番号	11-223
-------	----------	-------	--------

≪Ⅳ. 評価(測定・分析)≫

ロジックモデルの考え方



事業の活動内容や成果

平成30年度実績								
活動実績と成果	14	<p>家庭療養指導については、市外在住、入所等で訪問できない患者を除いた934人の患者に対して、不在、再訪問等も含めて、1,069件の訪問を実施した。この訪問を通して、各認定患者自身がぜん息に関する吸入薬、吸入器などを適切に使用し、快適な日常生活を送れるようになることを目的として、保健師による薬の管理、吸入方法の確認、指導を実施した。 いきいきセミナーについては、各回の定員10人、年間11回開催し、延べ54人の認定患者が参加した。 また、インフルエンザ予防接種費用助成については、65歳以上の利用者331人、65歳未満の利用者数184人、計515人の認定患者が利用した。</p>						
	15	指標名	単位	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	
				目標値	950	1,007	934	1,201
				実績値	1,107	1,126	1,069	
				達成率	117%	112%	114%	
				評価	良い	良い	良い	
			算出方法・設定根拠など					
			市外在住、入所等で訪問できない患者を除いた患者数に対する、訪問件数(不在、再訪問等含む)					
	16	指標名	単位	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	
				目標値	110	110	110	110
				実績値	74	77	54	
				達成率	67%	70%	49%	
				評価	少し悪い	少し悪い	悪い	
			算出方法・設定根拠など					
			呼吸器教室(12人)、吹き矢教室(18人)、ヨガ教室(11人)、太極拳教室(13人)					

業績の分析

		目標を達成できた、または達成できなかった要因についての分析 (その他、関連情報に基づいた分析)
17		家庭療養指導については、本市では年齢、等級に関係なく全認定患者を対象としており、不在であっても再度訪問を行うなど、他自治体と比べかなり手厚く行っていることから目標を超える訪問件数となった。いきいきセミナーについては、認定患者数の減少、高齢化が顕著であり、参加者数は減少傾向となっている。

【分析のチェックポイント】

- 事業の達成度はどうでしたか。
- 5W2Hを踏まえて、実施過程に問題はありませんでしたか。
- 資源投入は適切でしたか。
- 事前想定できない外的要因の影響はありませんでしたか。
- 事業の有効性は高いですか。低いですか。